

[完了評価]

課題名 茨城県における繁殖和牛の周年放牧管理技術の確立

【課題の概要】

近年、繁殖経営の高齢化に伴い、小規模経営層を中心に減少傾向にある中で省力化による労働生産性の向上が求められている。畜産センターでは、この課題に対応する技術として、これまでに夏季、冬季における放牧対策の研究を実施してきた。

しかしながら、周年放牧技術については様々な研究や取り組みがなされているが、年間継続して利用できる技術はまだ確立されていない。

また、放牧は、牛舎や住居に近い休耕田などでの利用が有利だが、本県北地域では排水条件が悪く泥濘化や湿害が発生するなど利用しにくい状況にある。そのため耐湿性に優れた牧草品種の放牧適応性を検証し、さらにこれまで開発された技術を体系的に組合せて周年放牧技術を確立する。

結果、本研究成果と既往成果を組み合わせることにより、概ね周年放牧が可能となることが示された。

【評価結果】（評価委員数 4名）

○各項目の評価（各評価委員の平均点）

研究目標の達成度・副次的効果	成果の意義・波及効果	成果の普及	合計点
3.3	3.3	3.0	9.6

○総合評価 3：普通

（1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好）

【委員の意見・助言と対応策】

評価項目	意見・助言	
研究目標の達成度・副次的効果	本試験だけでは周年放牧を実証できなかったものの、長年の研究成果を統合したことで周年放牧に必要な情報を提供できるようになった。	
成果の活用・普及等への波及の可能性	小規模な繁殖和牛農家に対して周年放牧の可能性を示せる。農家がわかりやすいパンフレットを作成する等、普及推進が期待される。	
残された問題点の解決方策について	ヒエの出穂期の把握や水飲み場の設置方法についても検討が必要。水田農地への飼料用ヒエ等の侵入リスクは大きな阻害要因となる。普及推進にあたり優良事例の創出が期待される。	
総合評価	意見・助言	対応策
	常陸牛の生産拡大のためにも、農家の省力化につながる研究は不可欠である。今後も泥濘化対策も含め、様々な条件下での放牧に対応した情報が提供できるよう広範な知見の蓄積を進めてもらいたい。普及推進に向けて関係機関と連携して優良事例の創出に積極的に取り組んでいただきたい。	試験成果については、放牧管理技術マニュアルを作成し、各農林事務所畜産振興課と連携して畜産農家へ技術の普及を図る。放牧管理技術マニュアルには、試験成果に加えて泥濘化対策や飼料用ヒエの栽培上の注意点などを記載する。